

会 議 録

会議の名称	第3回白岡市中学校生徒の自転車通学に関する意見交換会															
開催日	令和6年3月18日（月）															
開催時間	午後3時 開会 ・ 午後4時15分 閉会															
開催場所	白岡市役所 4階 会議室404															
会長の氏名	新井 範 夫															
出席者（会員等）の氏名	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">増田 陽 一</td> <td style="width: 33%;">新井 範 夫</td> <td style="width: 33%;">大山 美智子</td> </tr> <tr> <td>青木 春 乃</td> <td>辻 文 明</td> <td>柳 和 志</td> </tr> <tr> <td>藤井 亮 輔</td> <td>諸岡 瑞 穂</td> <td>濱田 貢 志</td> </tr> <tr> <td>吉川 すみ子</td> <td>高橋 茂 雄</td> <td>岩 楯 浩 志</td> </tr> <tr> <td>神田 光 雄</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">（13名・敬称略）</p>	増田 陽 一	新井 範 夫	大山 美智子	青木 春 乃	辻 文 明	柳 和 志	藤井 亮 輔	諸岡 瑞 穂	濱田 貢 志	吉川 すみ子	高橋 茂 雄	岩 楯 浩 志	神田 光 雄		
増田 陽 一	新井 範 夫	大山 美智子														
青木 春 乃	辻 文 明	柳 和 志														
藤井 亮 輔	諸岡 瑞 穂	濱田 貢 志														
吉川 すみ子	高橋 茂 雄	岩 楯 浩 志														
神田 光 雄																
欠席者（会員等）の氏名	麻生 雅彦 佐々木 徹 （2名・敬称略）															
説明員の職・氏名	教育部長 阿部 千鶴子															
事務局職員の職・氏名	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">教育指導課指導担当指導主事</td> <td style="width: 50%;">福岡 拓 弥</td> </tr> <tr> <td>教育指導課主事学務担当</td> <td>田島 舜 太</td> </tr> </table>	教育指導課指導担当指導主事	福岡 拓 弥	教育指導課主事学務担当	田島 舜 太											
教育指導課指導担当指導主事	福岡 拓 弥															
教育指導課主事学務担当	田島 舜 太															
会議次第	<p><第3回 白岡市中学校生徒の自転車通学に関する意見交換会></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 自転車通学に関する事務局説明 第1回、第2回のまとめと、今後の方向性について 3 協議 4 その他 5 閉会 															
配布資料	別添のとおり															
傍聴者数	0人															

<第3回 白岡市中学校生徒の自転車通学に関する意見交換会>

1 開会（福岡指導主事）

開会を宣言した。

2 自転車通学に関する事務局説明（新井会長）

第1回、第2回のまとめと、今後の方向性について

福岡指導主事が会議資料に基づき、これまでのアンケート結果、近隣市町の状況や意見交換会における主な意見について説明した。

その後、今後、自転車通学が実現した場合の方向性について3点の可能性を示した。

説明に対する、会員からの質疑は次のとおり。

（A会員）

- 会議資料「白岡市 中学校生徒の自転車通学に関する今後の方向性について」の「現在の事務局の考え」に記載のある、「現在の運営以上に自転車通学を認める

範囲」とあるのは、大山小学校を卒業した白岡中学校生徒が、土日の部活動の際に自転車を活用していることを示しているのか。

- ➡ その場合を含め、職場体験の際や部活動の大会など、教育委員会が限定的に認めた場合を示している。
- その場合、「自転車通学」というよりは「自転車の使用」という表記が適切ではないか。自転車通学は認められていないので、誤解を招いてしまう。
- ➡ 表記の訂正を行う。

3 協議

事務局からの説明を受けて、各会員に意見、感想を求めた。

(A会員)

- 事務局の方向性の考えには賛成である。ただし、前回会議において、一歩進めて何かできることを考えるべきだ、ということでまとまったかと思う。「地域や保護者が主体となって…」とのことだが、誰が地域や保護者の方に声をかけ、筋道を立てていくかを考えないと、進めることができないのではないか。今後の青写真のようなものを形として残さないといけないのではないか。

(B会員)

- 「地域や保護者が主体となって…」とあるが、PTAが声掛けをするのか。
 - ➡ PTAの会議、学校運営協議会や一部の保護者など、声のあがる場所は様々だと考えている

(C会員)

- 第1回会議から、現状としては自転車通学に賛成できないという立場。駐輪場や自転車道路の整備など、現状に比べ安全な状況ができたところで考えていくべき。自転車通学を取り入れないのであれば、暑さ・寒さ対策や重い荷物の対策を自転車通学以外の形で示す必要があるのではないか。

(D会員)

- 保護者やPTAが主体となって進めるとなると、本会のような意見交換会を各校で実施する必要があるのではないか。教育委員会と協議し、自転車通学を認めた後に、環境の整備という流れで間に合うのか。日没時間に合わせた下校時間の見直しや放課後の活動の見直しをすることで、改善の余地があるのではないか。職場体験の際に自転車を確認したところ、サドルが非常に高くなっているものなど様々なものがあつた。このような現状から、学校運営協議会や保護者・PTAの力添えが必要になると考える。

(A会員)

- 地域の事を一番知っているのは地域の保護者なので、自身の学区について考えてもらうことは必要なことであるが、自転車通学を実施したいとなった後に何年後にどのように実現するかといった青写真を示す必要がある。今回、アンケートを回答してくださった方々に、フィードバックとして今後の予定を示せるとよい。学校運営協議会を中心に会議を行うのであれば、議題は教育委員会が投げかけるべきだと考える。

(E会員)

- 自転車通学を認める方向性ありきで会議が実施されたのではないかと考える。アンケートでも多数の賛成がある中で、実現できませんでしたとなると、アンケートの意味は無かったという意見も出るのではないか。延期するのであれば時期等の回答が必要ではないか。何か前向きな回答があつたほうがよいのでは

ないか。地域の方が主体となるにしても、ゴールを示してあげないと困ってしまうと思う。

(F 会員)

- 個人としては歩きでもいいと考えている。中学校より小学校低学年のほうが心配である。菁莪中学校の立場だと、7割という多くの方が自転車通学を希望している中で、この回答だと何も進んでいないと思われてしまう。どのような状況になったら認められるかを示すことができれば、保護者も納得できるのではないか。今後実現していくのであれば、目標のようなものを示さないと、数年後また同じ状況になってしまう。

(B 会員)

- 踏切を越えて通学している子の危険性はどのように解消されるかなどを考えると、現状としては難しいと考える。ただし、本会議を開催しても何もなかったとなると、保護者の方は納得しないのではないか。そもそも、PTA会長を2年間やっているが、保護者から自転車通学を認めてほしい旨の意見をきいたことがない。学校にそういう意見があがっているかも疑問である中、どこからも声があがっていないものをPTA会長がどの場で取り上げればいいのかわからない。また、話し合いで認められたとしても、実現まで時間がかかると、話し合いに参加した保護者の子どもは自転車に乗ることができない。スケジュールをしっかりと決めていただかないと声をあげづらい。

(G 会員)

- 実現してほしいという意見があり、本会が開催されたのだろうから、会議の結果をある程度残しておかないと、保護者の方は納得しないと思う。道路の整備等の今後の流れを報告できると良いと思う。

(新井会長)

- 本会において出された、意見や方向性については保護者にフィードバックされるのか。
➡ 方法は未定だが、まとめとして報告する予定である。

(H 会員)

- 警察としてはやれるべきことはやろうと考えている。1点目は、自転車の安全な乗り方について、安全教育の時間において指導を行うこと。2点目は、データから分析を行い、事故の多い路線や交差点をピックアップすること。更に原因を探ることで、市と連携して安全対策ができると考える。関係機関と連携してできることを考えている。

(I 会員)

- 自転車通学を実現するのであれば、安全に通えるよう環境を整える必要があると考えている。アンケートの結果と現場での声に相違があるとのことなので、本当に必要かどうかを、本会のような場で話し合いを続けていく必要があるのではないか。現場の声と環境の実態、いつやるのかも踏まえて、PTAの方とも話し合いをしていく必要があると考える。

(J 会員)

- アンケートの結果と現場の声で相違があるとのことだが、アンケートの聞き方にもよると思う。ただ「やりたいですか」と聞けば賛成の意見が多くなるだろうし、危険性を踏まえた聞き方をすれば、賛成の意見は少なくなるのではないか。「強く希望する」の意見が18%であることを踏まえると本当に必要としている方はほとんどいないのではないか。また、通学距離について、小学生と

中学生に大きな違いはないのに、より大人に近い中学生は認められていると、小学生は認められないのかという問題になってしまう。

(K会員)

- 自転車の乗り方を知らない人が多い。安全教育は実施したほうがいい。通学に限らず安全教育は必要ではないか。

(新井会長)

- 久喜市では自転車通学を行っているが、警察が中学校に行き、定期的に安全指導を行っているのか。
 - ➡ 1年に1回必ず実施している学校がある。
- 学区内において認められる子と認められていない子がいると思うが、その場合はどのように安全指導を行っているか。
 - ➡ 全校生徒に実施している。通学で使用していなくても、プライベートで使用していることを想定している。

(L会員)

- PTA会長を長くやっているが、保護者から自転車通学の希望について聞いたことが無い。アンケートをとったら「希望する」と答えるだろう。先を見据えていないと賛成の意見は多くなると考える。自転車は軽車両であるといった認識が子どもには欠けていることがあるので、安全指導による認識の植え付けは必要である。

(A会員)

- フィードバックをするのであれば、様々な対策をとりながら、今後実現できることの含みをもたせたらどうか。「検討を進める」という表現をして、様々な具体的な対策を示していけば、変えようとする姿勢を示すことができるのではないか。

(E会員)

- やらなければいけないことは多い。自転車の状態、点検事項の整備等が必要。試験的にやってみようかという内容ではない。最低限の整備が必要。

(A会員)

- 整備が負担であり、学校でできないとなれば、保護者が主体となって行う必要があるが、教育委員会の多少の主導が必要である。

(事務局)

- 資料の事務局の考えについて、自転車利用の範囲の拡大について、意見交換をした結果検討を進めていくとした上で、安全対策としての交通安全指導を充実させていく。道路の整備については難しいと考えるが、学校の駐輪場については、現在2校が無い状態。これに対して、教育委員会が時期を含め、どこまでできるかを考えていく。保護者からの声を聞いていないという意見については、市長への手紙や、中学校になると学区の関係から、遠い中学校に通う必要がある保護者からの声など、多い件数ではないが、強い意見があったのは事実である。
- 「現在の事務局の考え」をどう発信するかについては、検討させていただき、教育委員会から、何らかの形で保護者の方々へフィードバックをする予定である。
- 教育委員会としては、自転車通学が可能であれば実施する方向から、本会はスタートしている。その際に、アンケートをとったらどうかということで、アンケートを実施した。

- 現在の利用の範囲を拡大できるという考えから、拡大を目指して、各立場の方々から本会において意見を伺ってきた。
- いただいた意見は参考にしつつ、取りまとめた上で発信していきたい。
- 資料の今後の方向性については、内部で検討を行い、修正案を作成するので、会員の皆様には書面で内容を確認していただき、意見があれば頂戴したい。
- その後、学校を通じて保護者の方々へ報告する等の、フィードバックの方法について考えていきたい。
- フィードバックの内容についても保護者の方に報告する前に、会員に内容を確認していただき、頂戴した意見については、可能なものは反映した状態でフィードバックを行う。

4 その他（福岡指導主事）

集会での会議は3回をもって終了とし、今後は書面等で意見をお願いすることについて説明した。

5 閉会（柳副会長）

閉会を宣言した。